

平成14年度電子ジャーナル・タスクフォース報告

1. タスクフォース設置の背景と経緯

背景

- ・電子ジャーナルの加速度的提供
- ・ジャーナルの性格の変化
- ・タイトル単位から出版社単位での全タイトル提供
- ・ジャーナルの高騰とそれに伴う純タイトル減少を補う方策
- ・ジャーナル利用の高度化と利用境界のハードルの消去
- ・情報格差解消

経緯

平成12年5月

国立7大学(北大、東北大、東大、名大、京大、阪大、九大)附属図書館館長から Elsevier Science へ要望書(円価格問題、並行輸入問題)を送付

平成12年7月

上記要望書に対し、Elsevier 会長から協議したい旨の回答を受領

平成12年9月

国立大学図書館協議会のもとに電子ジャーナル・タスクフォースを設置

平成13年6月

国立大学図書館協議会総会で1年間の延長承認、Elsevier および他の出版社との協議

平成14年3月

平成14年度以降の電子ジャーナル・タスクフォースの活動と組織について協議

平成14年6月

国立大学図書館協議会総会で体制増強を承認、協議対象出版社の拡大

平成14年10月

アーカイブと利用統計に関する取り組みを開始

2. タスクフォース設置の趣旨

- ・ Elsevier の申し入れに対応し、国立大学図書館協議会を代表して国立大学における ScienceDirect 導入(アーカイブ実験などを含む)、2002年度以降の各大学の事情に応じた契約に向けて、同社と柔軟、かつ迅速に協議する。
- ・ Elsevier 以外の出版社が提供する電子ジャーナルについても、同様の観点から検討し、必要であれば各出版社とも協議する。
- ・ 電子ジャーナルの導入に伴う学術情報流通の変化に関する当面必要な施策に関し、国立大

学図書館協議会に設置されている図書館電子化特別委員会関東地区・東京地区WGと連携して検討を行う。(同WGはその後活動期間を満了して解散した)

3. タスクフォース・メンバー

5大学の附属図書館長、7大学の附属図書館事務部・課長の計12名により発足した。現在は、平成14年3月に行った今後のタスクフォースの組織に関する協議内容を受けて地区別と出版社別の担当に対応するためにメンバーを増強し、平成14年度は最終的に以下の26名となった。

平成14年度メンバー

主査

伊藤 義人(名古屋大学附属図書館長)

早瀬 均(北海道大学附属図書館情報管理課長)

坂上 光明(東北大学附属図書館事務部長)

三池慎三郎(東北大学附属図書館情報管理課長)

土屋 俊(千葉大学文学部、国大図協会長補佐)

尾城 孝一(千葉大学附属図書館情報サービス課長)

平元 健史(東京大学附属図書館総務課長)

星野 雅英(東京大学附属図書館情報管理課長)

内島 秀樹(東京外語大学附属図書館図書館専門員)

杵淵 政明(東京学芸大学附属図書館情報管理課長)

笹川 郁夫(東京工業大学附属図書館事務部長)

塚田 吉彦(東京工業大学附属図書館情報管理課長)

杉山 宗武(東京工業大学附属図書館情報サービス課長)

青木利根男(横浜国立大学附属図書館情報管理課長)

長友 良維(信州大学附属図書館情報サービス課長)

白井 克己(名古屋大学附属図書館情報サービス課長)

郡司 久(名古屋大学附属図書館情報システム課長)

小花 洋一(京都大学附属図書館総務課長)

故選 義浩(京都大学附属図書館情報管理課長)

森 稔夫(大阪大学附属図書館情報サービス課長)

藏野由美子(兵庫教育大学附属図書館図書課長)

簗原 和秀(広島大学附属図書館情報管理課長)

有川 節夫(九州大学附属図書館長)

石井 保廣(九州大学附属図書館事務部長)

浜崎 修一(九州大学附属図書館情報管理課長)

加藤 信哉(熊本大学附属図書館情報サービス課長、平成14年11月から参加)

事務局員

山本 和雄(東京大学附属図書館情報管理課資料契約掛長)

講習会事務局員

鈴木 宏子(千葉大学附属図書館情報サービス課情報サービス企画係長)

4. 平成14年度の活動

(1) 国立大学附属図書館に対する調査

a) 平成14年5月

国立大学における電子ジャーナルの契約状況調査 (平成14年度第1回:各大学の予算状況、主要各社の契約状況)

b) 平成14年6月

CAonCD及びSciFinderの各大学契約状況調査

c) 平成14年9月

国立大学における電子ジャーナルの契約状況調査 (平成14年度第2回:Elsevier の各大学契約状況調査)

d) 平成14年12月

国立大学における電子ジャーナルの契約状況調査 (平成14年度第3回:データベースに関する各大学契約状況調査)

(2) Elsevier Science との協議

ScienceDirect と IDEAL の統合に伴う様々な課題に対応し、かつ、アーカイブも視野に入れた既得利用環境の継承問題に取り組んだ。

平成14年度末時点での参加状況は、フリーダム(36機関)、クロスアクセス+ライフ(20機関)、ライフ(9機関)、クロスアクセス(24機関)等、計95機関となった。

(3) その他の出版社との協議

a) Blackwell : Synergy

20機関以上でコンソーシアムを形成した際、年間入会金を無料とする特典を得ている。懸案は CAP、キャンセル許容率、電子中心の価格体系の策定。56機関が導入している。(以下、参加機関数は平成14年度末時点)

b) Springer : SpringerLink

コンソーシアムによるカレント契約のほか、アーカイブの保証について取り組んでいる。懸案は電子中心の価格体系の策定。84機関が導入している。

c) Wiley : InterScience

コンソーシアムによるカレント契約のほか、アーカイブの保証について取り組んでいる。懸案は高率な(95%)電子価格体系。64機関が導入している。

d) Kluwer

丸善・紀伊國屋書店が Kluwer から代理店として指定されている。平成15年度に向けて新規にコンソーシアム形成を行い、アーカイブの保証について取り組んでいる。55機関が導

入している。

e) Nature

日本向けの割引特典を得ている。24機関が導入している。

f) IEEE-CS (Computer Society) : CSLSP-e

平成15年度に向けて新規にコンソーシアム形成を行い、アーカイブの保証について取り組んでいる。懸案は学内会員の取扱、IEEE 全体並びに傘下他学会との関係、冊子体総代理店 (平成14年度は丸善、平成15年度は Swets も参入) との調整。CSLSP-e を17機関、Proceedings のみを2機関が導入している。

h) ACM (Association for Computing Machinery) : ACM Portal

平成15年度に向けて新規にコンソーシアム形成を行い、アーカイブの保証について取り組んでいる。13機関が導入している。

i) EBSCO、ProQuest -- アグリゲータ系

EBSCO は24機関、ProQuest は15機関が導入している。

j) ISI : Web of Science、CSA (Cambridge Scientific Abstracts) : IDS -- データベース系

ISI は20機関、CSA は8機関が導入している。ISI の懸案は高額な価格体系とユーザーインターフェースの改善。

k) その他出版社等

Karger はタスクフォースとしては利用条件に折り合いがつかないが、暫定提案により7機関が導入している。その他、BMJ (British Medical Journal)、Cambridge UP、Oxford UP、Sage、Science、Taylor & Francis、Thieme、BioOne、APA (American Psychological Association)、CAS (Chemical Abstracts Service) 等について協議を行っている。

また、日本の学会による電子ジャーナル刊行支援の一環として関係団体との情報交換を開始した。

(4) Q and A の作成

平成14年5月に実施した契約状況調査と、各出版社との協議状況をQ and A のかたちにまとめ、同年9月に各大学へ配布した。

(5) 利用統計データ検討

平成14年10月にタスクフォース内に利用統計データ検討グループを設置し、報告書をまとめると共に出版社に示す利用統計データ提供指針を策定した。

(6) 「大学における電子ジャーナルの利用の現状と将来に関する調査」の実施

平成13年に10大学 (7大学、千葉大、東工大、広島大) の教員、院生 (3,000名) を対象に実施した調査について、調査結果を分析し報告書にまとめて各大学に配布した。

(7) 「電子ジャーナルユーザー教育担当者研修会基本計画」を作成

平成13年度に引き続き、8月に東西地区 (東京工業大学、大阪大学) で2日間の標記研修会を開催、東地区は56名、西地区は50名が参加した。

また、平成15年度以降の開催方法について、国立情報学研究所の研修事業との調整も視野

に入れた協議を行った。

(8) 大学統合問題への対応

大学統合に際して、統合後の新大学の予算・購読規模は、統合前の各大学の規模を単純に合算したものにならないので、各出版社に配慮と対応を求めた。

(9) 国内の各種コンソーシアムを仮想的に包括するコンソーシアムについて

Elsevier 円価格問題について、平成14年7月に公正取引委員会から、かねて審査請求を出していた私立大学図書館協会、日本医学図書館協会、日本薬学図書館協議会に対し、同問題は独占禁止法に抵触しない旨の回答があり、3団体の法的争議は一応の終結を見た。

タスクフォースでは事務的協議の土壌が整備されたことから平成14年10月に JCOLC の枠組みを検討し、同枠組みは国公私協力委員会で各種大学コンソーシアム全体を対外的に包括する際の呼称として了承された。

(10) その他

タスクフォースは、出版社との協議、事前協議を含めてメンバーによる会議を43回実施した。また、各社の提案資料、協議の記録等を全国立大学附属図書館に送付し、タスクフォースの活動に関して随時報告を行った。報告には国立大学図書館協議会のメーリングリストを使用する他、各大学の電子ジャーナル担当者メーリングリストを平成13年10月に新設し、その発信回数は44回を数えた。また、調査の結果は全て Web で公開 (ID とパスワードによりアクセス) している。

5. 今後の課題

電子ジャーナルは予想を上回る展開で急速に普及しており、電子ジャーナル・タスクフォースに与えられた課題は年を追う毎にその広がりや深まりを見せている。

現在協議の場を設けている出版社についてもまだ解決すべき懸案事項が残されているため、今後も継続的に出版社等との協議を進め、各大学における電子ジャーナルの導入と活用を支援して行く必要に加えて、今後は特に平成17年度に向けて新たなコンソーシアムの枠組みの検討や、電子ジャーナルの広報の強化が必要である。

平成 14 年度 カレンダー

平成 14 年

- 4.16 第 1 回 タスクフォース会合、出版社協議: IEEE-CS、ProQuest、CSA
- 4.19 出版社協議: Wiley
- 4.26 出版社協議: Elsevier (Singapore)
- 4.30 出版社協議: ISI
- 5. 1 出版社協議: IEEE-CS (千葉大)
- 5.14 出版社協議: Wiley (京大)
- 5.20 出版社協議: Elsevier、Kluwer(&丸善、紀伊國屋)
- 5.23 第 2 回 タスクフォース会合、出版社協議: Elsevier、Kluwer/丸善、EBSCO
- 6. 6 出版社協議: Nature
- 6.17 出版社事前協議: Elsevier
- 6.21 出版社事前協議: Elsevier
- 7. 4 第 3 回 タスクフォース会合、出版社協議: IEEE-CS、Kluwer/丸善、Nature、EBSCO、ProQuest、CSA
- 7.11 出版社協議: Wiley (京大)
- 7.18 出版社協議: Elsevier
- 7.31 第 4 回 タスクフォース会合、出版社協議: Elsevier、Springer
- 8. 8 出版社協議: Wiley (NII)
- 8.14 出版社事前協議: 化情協
- 8.26 出版社協議: Elsevier、Blackwell、Kluwer
電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修会: 東地区(東工大) 8.26-27、西地区(阪大) 8.28-29
- 8.30 出版社協議: Wiley (京大)
- 9. 4 出版社事前協議: Karger
- 9.18 出版社事前協議: ACM/紀伊國屋
- (9.19 ICOLC 第 12 回会議出席 (Nashville) 9.19-21)
- 10. 2 出版社事前協議: Sage/CSA (千葉大)
- 10. 4 出版社協議: EBSCO (東京外語大)
- 10. 7 出版社協議: ProQuest (東京外語大)
- 10. 8 第 5 回 タスクフォース会合、出版社協議: Elsevier (東大)、Wiley (京大)
- 10.10 出版社協議: Karger
- 10.25 EJ リポジトリ及び OUP に関する協議 (NII)
- 11. 8 出版社協議: Karger
- 11.12 出版社事前協議: 中国国務院発展研究センター
- 11.13 NII-Oxford EJ 共同プロジェクトの今後に関する国公立大学関係者意見交換会 (NII)
- 11.19 出版社事前協議: Taylor & Francis/紀伊國屋

- 11.21 第6回 タスクフォース会合、出版社協議: Springer、Taylor & Francis/紀伊國屋、Wiley
- 12. 2 出版社事前協議: 日経メディアマーケティング
- 12. 9 出版社協議: IEEE-CS (NII)
- 12.19 タスクフォース臨時会合、出版社協議: Karger、Taylor & Francis/紀伊國屋、Wiley

平成 15 年

- 1.16 第7回 タスクフォース会合、出版社協議: ACM/紀伊國屋、Oxford、利用統計協議
- 1.28 出版社協議: 化情協
- 2.10 出版社協議: (Elsevier Haank 会長来日)
- 2.17 出版社協議: Science
- 2.21 出版社リポジトリ協議: ACM/紀伊國屋 (NII)
- 3.13 第8回 タスクフォース会合、出版社協議: Blackwell、Oxford
- 3.14 利用統計協議: COUNTER
- 3.26 出版社協議: (IEEE-CS Diamond 会長来日) (NII)

会場の明示の無いものは東大開催

平成 14 年度 国立大学図書館宛て連絡文書一覧

平成 14 年

- 4. 3 [ej103 16] ScienceDirect の所得税源泉徴収について
- 4.19 [ej103 18] ISI の Web of Science コンソーシアム導入について
- 5.24 [ej103 20] 国立大学における電子ジャーナルの契約状況調査(平成 14 年度第 1 回)について
(調査報告は [ej103 31])
- 5.30 [ej103 22] 所得税源泉徴収の新解釈
- 6.11 [ej103 23] CAonCD, SciFinder 導入状況調査、(報告は [ej103 25])
- 6.21 [ej103 27] SD-IDEAL 統合価格モデル(案)、報告は [ej103 30]
- 7. 5 [ej103 28] アグリゲータ系電子ジャーナルトライアル
- 7. 8 [ej103 30] SD-IDEAL 統合価格モデル(案) ES 回答
- 7.24 [ej103 33] ICOLC 第 11 回会合の議事要旨
- 8.15 [ej103 34] エルゼビア・サイエンス社との協議状況について
- 8.16 [ej103 35] CSA-IDS 導入スケジュールと定価表
- 8.28 [ej103 36] IEEE コンピュータ・ソサイエティ「契約意向確認書」の送付について
- 8.30 [ej103 37] Wiley 2003 概算見積
- 9.10 [ej103 38] Springer-LINK コンソーシアムについて

- 9.19 [ej103 39] エルゼビア 2003 年価格に関する Haank 氏の手紙について
- 9.20 [ej103 40] 電子ジャーナル契約検討資料の送付について
- 9.20 [ej103 41] ブラックウェル社との 2003 年契約条件交渉について(中間報告)
- 9.20 [ej103 42] Kluwer 並びに IEEE/CS の予約オーダーについて
- 9.27 [ej103 43] Nature サイトライセンス概要
- 9.27 [ej103 44] Kluwer Online コンソーシアムについて
- 9.27 [ej103 45] 国立大学における電子ジャーナルの契約状況調査(平成 14 年度第 2 回)について
- 10. 3 [ej103 46] IEEE/CS CSLSP-e トライアル開始
- 10.17 [ej103 48] エルゼビア 2003 年価格に関する Haank 氏の手紙について(続報)
- 10.17 [ej103 49] Kluwer の予約オーダーについて(続報)
- 10.17 [ej103 50] IEEE/CS の予約オーダーについて(続報)
- 10.30 [ej103 52] IEEE/CS, Kluwer, Nature コンソーシアム参加状況について
- 10.30 [ej103 53] ブラックウェル社との 2003 年契約条件交渉について
- 11. 6 [ej103 54] ブラックウェル社の 2003 年契約条件について
- 12. 4 [ej103 55] Kluwer 参加状況と複数代理店分散発注への対応について
- 12. 9 [ej103 56] 国立大学における電子ジャーナルの契約状況調査(平成 14 年度第 3 回)について
- 12. 9 [ej103 57] アグリゲータ系電子ジャーナルの契約条件について、(調査報告は [ej103 84])

平成 15 年

- 1.17 [ej103 60] Karger コンソーシアム提案について
- 1.17 [ej103 61] SciFinder Scholar コンソーシアム提案について
- 1.17 [ej103 62] SpringerLink 合意書について
- 1.29 [ej103 64] INSPEC on EV2 特別価格キャンペーンについて
- 1.30 [ej103 65] 電子ジャーナル導入経費について
- 1.31 [ej103 66] ScienceDirect ライフサイエンス・サブジェクトコレクションについて
- 2.12 [ej103 70] ACM コンソーシアムについて
- 2.19 [ej103 73] Karger コンソーシアム条件改善について
- 2.26 [ej103 74] 平成 15 年(2003 年)エルゼビア社サイエンスダイレクトの状況について
(調査報告は [ej103 88])
- 3. 6 [ej103 83] ブラックウェル社の 2003 年契約更新について
- 3.18 [ej103 85] 2003 年 SD クロスアクセスについて
- 3.26 [ej103 89] エルゼビアクロス問い合わせ